

農林水産大臣賞及び長崎県知事賞

農林水産大臣賞 及び 長崎県知事賞

受賞部門：施設野菜部門（トップファーマー）

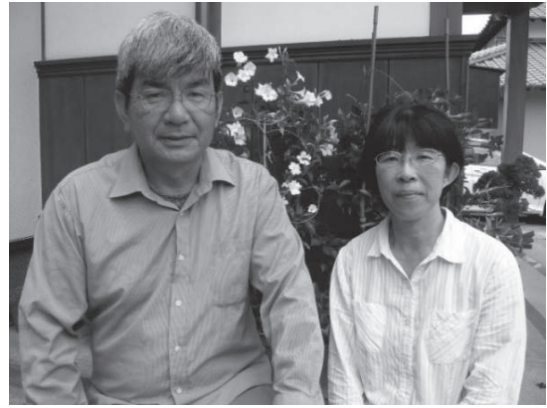
氏名

よしだ しゅうじ
吉田 修二

よしだ やすこ
吉田 泰子

市町名 島原市

所属団体 JA 島原雲仙なんこういちご部会



1 経営の概要

	主品目（いちご）	その他（野菜）	合計
作付面積(頭羽数)	52a	メロン他 14a	66a
単収	7,143kg/10a	—	—
生産量（販売量）	37.1t	—	—
労働時間 （うち雇用時間）	—	—	14,176 時間 (4,576 時間)
家族従事者数	4 人	経営の継続性	経営主が 60 歳以下、後継者就農済
労働条件の整備	家族経営協定締結		
安全・安心と環境に 調和した農業の取組	基肥窒素施肥量の低減、天敵利用、太陽熱消毒、生産履歴記帳、 資源循環の取組（地域内資源の利用）		

2 受賞の理由（特徴的な取組）

- 「ゆめのか」において県内トップクラスの単収を誇り、県いちご部会の単収部門でも表彰されており、秀品率は 96.5%と極めて高品質ないちご生産を実践している。更なる増収を目指し、令和 3 年に環境モニタリング装置を導入して、環境制御技術の取組を開始している。
- なんこういちご部会長時に、省力性に優れ、秀品率・大玉率の高い品種「恋みのり」の試作に率先して取り組み、地域へ導入を推進した。また、「恋みのり」の大玉特性を生かした輸出用規格を提案し実現させている。「恋みのり」への転換は、農家経営を改善するとともに、部会の販売額も大幅に増加した。
- 県いちご部会部会長時には、近年のコロナ禍における、医療従事者へのいちごの提供を提案、実施している。県いちご部会の CM や YouTube に本人が率先して出演し、長崎県産いちごの PR にも尽力するなど、島原地域のみならず県全体のいちご産地の維持・発展に寄与している。



いちごの定植作業

長 崎 県 知 事 賞

長崎県知事賞

受賞部門：露地野菜部門（トップファーマー）

氏名

ほんだ けんご
本田 健吾

ほんだ みか
本田 美香

市町名 雲仙市

所属団体 JA 島原雲仙南申レタス部会
JA 島原雲仙南申馬鈴薯部会



1 経営の概要

	主品目（冬レタス）	その他	合計
作付面積（頭羽数）	570a	春作ばれいしょ 350a 秋作ばれいしょ 150a	1,070a
単収	6,000kg/10a	—	—
生産量（販売量）	342t	—	—
労働時間 （うち雇用時間）	—	—	14,800 時間 (5,040 時間)
家族従事者数	5 人	経営の継続性	経営主が 60 歳以下
安全・安心と環境に 調和した農業の取組	マクドナルド GAP、資源循環の取組（地域内資源活用）		

2 受賞の理由（特徴的な取組）

(1) 基盤整備地区内への農地集積や省力機械導入、作型分散により、労働生産性の向上と大幅な作業効率化を行い、地区トップクラスの作付面積 10ha を超える規模拡大を実現している。

(2) マクドナルド GAP に取り組み、マクドナルド向けを含む契約数量を JA 部会全出荷量の 51% という高いレベルにまで引き上げ価格安定に寄与した。さらなる販路拡大のため、JA 島原雲仙南申レタス部会長として「GLOBALG.A.P.」の認証に向け、取組を進めている。

(3) 県内初となるレタス収穫ロボット開発、レタス生育予測システム開発のスマート農業技術実証に対して、積極的に協力するなど、県及び地域の技術革新に貢献している。



レタス育苗管理作業

長崎県知事賞 受賞部門：花き部門（トップファーマー）

氏名

よしづか ゆうき
吉塚 勇樹

よしづか さやか
吉塚 沙矢佳

市町名 諫早市

所属団体 JAながさき県央諫早カーネーション部会
長崎県花き振興協議会カーネーション部会
長崎花き園芸農協花き生産組合
カーネーション部会



1 経営の概要

	主品目（カーネーション）	その他		合計
作付面積(頭羽数)	60a	ガーベラ 35a	馬鈴薯 15a	110a
単収	116,095 本/10a	—		—
生産量（販売量）	696,574 本	—		—
労働時間 (うち雇用時間)	14,187 時間 (8,141 時間)	5,115 時間 (2,841 時間)	19,302 時間 (10,982 時間)	
家族従事者数	4 人	経営の継続性	経営主が 60 歳以下	
労働条件の整備	家族経営協定締結			
安全・安心と環境に 調和した農業の取組	減化学農薬の取組（防虫ネット、防蛾灯、黄色粘着板等）、生産履歴記帳			

2 受賞の理由（特徴的な取組）

- (1) ヒートポンプの活用と EOD-heating 管理を組み合わせることで、燃油使用量削減と収量向上に努め、併せて養液土耕栽培システムにより、灌水・施肥作業の省力化と品種に合わせた栽培管理を実践している。さらに、カーネーションでは、全国に先駆けて炭酸ガス施用機等環境制御システムを導入し、県下でもトップクラスである部会の平均単収をさらに上回る収量を実現している。
- (2) 福祉事業所の受け入れを行い、農福連携による障がい者の就労支援と労力確保とを両立するモデル的な取組を実践している。
- (3) 花き関係者と連携して男性向けのフラワーバレンタインや、保育園、小学校での卒園、卒業のタイミングに合わせたアレンジメント教室の開催など、地域を巻き込んだ花育活動にも積極的に取り組んでいる。



カーネーションの定植作業

長崎県知事賞

受賞部門：畜産部門（トップファーマー）

法人名

さいかいさんぎょうゆうげんがいしゃ
西海産業有限会社

代表者名 代表取締役社長
やまき みつし
山崎 光志

市町名 西海市

所属団体 長崎県養豚協会
西海市認定農業者連絡協議会
西海市商工会



1 経営の概要

	主品目（養豚）	その他		合計
作付面積(頭羽数)	母豚 796 頭	—		母豚 796 頭
単収	母豚 1 頭当たり出荷頭数 28.3 頭	—		—
生産量（販売量）	22,509 頭	—		—
労働時間 （うち雇用時間）	33,684 時間 (27,740 時間)	—		33,684 時間 (27,740 時間)
役員数	4 人	経営の継続性	法人設立（昭和 47 年）	
労働条件の整備	就業規則に関する規定有			
安全・安心と環境に 調和した農業の取組	堆肥の供給、抗生剤等使用低減取組、膜分離で汚水処理水 SS 完全除去 生産履歴記帳、生産履歴に基づく販売			

2 受賞の理由（特徴的な取組）

- 昭和 47 年に設立、法人化し農業法人の先駆けとなっている。豚群管理能力検定システム等の活用による種豚を自家生産する閉鎖農場化と、食肉検査結果を基にした適切なワクチネーションによって、豚の改良推進と防疫強化を実現している。
- コンピューターで空調制御されたウィンドレス豚舎の導入や LED 照明への更新など先端技術と徹底した管理で高品質な豚肉生産を実施し、母豚 1 頭当たりの肉豚出荷頭数は 28.3 頭と全国でもトップレベルである。
- 丁寧で細やかな作業が向いている女性を積極的に採用し、地元の女性雇用の創出に貢献している。
- 県内大手スーパー「エレナ」において、こだわりの飼料選定による「西海豚」のブランド名で販売し、消費者との交流も実施している。



離乳作業（分娩舎から離乳舎への移動）

長崎県知事賞

受賞部門：農産部門（トップファーマー）

氏名

のうじくみあいほうじんいしだひがし
農事組合法人石田 東

代表者名 代表理事 おの 小野 ひでたか 秀孝

市町名 壱岐市

所属団体 JA 壱岐市つや姫生産部会
壱岐地域集落営農法人連絡協議会
壱岐市認定農業者協議会
石田東地区保全組合



1 経営の概要

	主品目 (大麦)	その他	合計
作付面積(頭羽数)	813a	水稲 687a WCS 300a 大豆 171a 飼料作物 399a にんにく 15a	2,385a
単収	342 kg/10a	—	—
生産量 (販売量)	28.3t	—	—
労働時間 (うち雇用時間)	488時間 (—時間)	1,715時間 (—時間)	2,203時間 (—時間)
役員数	9人	経営の継続性	法人設立 (平成 27 年)
労働条件の整備	就業規則に関する規定有		
安全・安心と環境に 調和した農業の取組	特別栽培 (つや姫、大豆)、環境直払交付金の GAP 実践、資源循環の取組 (堆肥と稲わら、麦わら交換)		

2 受賞の理由 (特徴的な取組)

(1) 大麦と大豆においては、施肥・播種・耕起を同時に行う機械を導入し、一工程で作業を行い、水稲では早期と普通期で作期を分散させて作業の効率化を図っており、高い労働生産性を実現している。

(2) 県下で初めて FOEAS (地下水位制御システム) を導入することで、大麦、大豆の収量が向上したほか、露地野菜にも取り組むなど、高収益経営を実践している。また近隣法人にも FOEAS が導入されるなど地域への波及効果も高い。

(3) 水稲「つや姫」および大豆は、特別栽培と IPM (総合的病害虫・雑草管理) に取り組み、わらと堆肥の交換による土づくりなど環境に優しい農業に取り組んでいる。



構成員による花壇の整備

長崎県知事賞

受賞部門：特産部門（トップファーマー）

氏名

おおやま よしたか
大山 良貴

おおやま まみ
大山 真美

市町名 東彼杵町

所属団体 株式会社 FORTHEES

JA ながさき県央茶業部会

東彼杵支部



1 経営の概要

	主品目（茶）	その他	合計
作付面積(頭羽数)	1,027a	水稻 30a	1,057a
単収	114 kg/10a	—	—
生産量（販売量）	11.7t	水稻 0.7t	—
労働時間 （うち雇用時間）	6,770 時間 (2,000 時間)	30 時間 (0 時間)	6,800 時間 (2,000 時間)
家族従事者数	4 人	経営の継続性	経営主が 60 歳以下
安全・安心と環境に 調和した農業の取組	発生予察による減農薬・土壌診断に基づく減化学肥料の取組 生産履歴の記帳、資源循環の取組（地域間連携）		

2 受賞の理由（特徴的な取組）

(1) 県内でもいち早く優良早生品種「さえみどり」、「つゆひかり」、「きらり 31」などを積極的に導入するとともに、標高差を利用して作業の分散を図り、適期摘採を実現している。

(2) 適期摘採と高い製茶技術により市場での評価も高く、優良品種導入のモデルとして地域での新品種の普及に貢献している。

(3) 長年の技術の研鑽により、各種品評会、茶園共進会で好成績を収め、その高品質な茶づくりは、茶商など市場からの評価は高く、地域の茶生産者の技術向上を促す模範となっている。

(4) 平成 30 年には、地域の若手生産者とともに需要が高まっている碾茶生産に取り組む（株）FORTHEES を設立し、海外輸出への取組を先導してアメリカやオランダでのプロモーション活動を積極的に行った結果、同社は県内最大の茶の輸出事業者となった。



海外でのそのぎ茶プロモーション

長崎県知事賞 受賞部門：林産部門（トップファーマー）

法人名

つしまもくざいじぎょうきょうどうくみあい
対馬木材事業協同組合

代表者名 代表理事 まつもと やすひで
 松本 泰英

市町名 対馬市

所属団体 -



1 経営の概要

	主品目 (木材)	その他 (木質バイオマス)	合 計
作付面積(頭羽数)	搬出間伐 12.4ha 主伐 12.0ha 造林 2.5ha 森林作業道 1,796m	—	搬出間伐 12.4ha 主伐 12.0ha 造林 2.5ha 森林作業道 1,796m
単収	平均出材量 213 m ³ /ha	—	—
生産量 (販売量)	木材生産量 5,209 m ³	木質チップ販売量 35,759 m ³ (うち自社伐採量 2,844 m ³)	木材取扱量 38,124 m ³
労働時間 (うち雇用時間)	14,000 時間 (14,000 時間)	14,400 時間 (12,288 時間)	28,400 時間 (26,288 時間)
役員数	1 人	経営の継続性	法人設立 (平成 22 年)
労働条件の整備	就業規則の規定有		
安全・安心と環境に 調和した農業の取組	森林経営計画認定 (平成 31 年)		

2 受賞の理由 (特徴的な取組)

- (1) 人工林の低質材有効利用を目的に平成 22 年にチップ製造を行う「対馬木材事業協同組合」を設立し、本協同組合の木質チップ生産量は対馬全体の 94% を占め対馬の木質生産量増大に寄与している。
- (2) 素材生産に本格参入後、機械化等により生産量は 2.5 倍に増加し、生産された木材はすべて協定により販売している。また、再造林の省力化に向けて、対馬で初めて動力式穴掘り機を導入した。



木材生産の状況 (皆伐)

- (3) 後継者の辰也氏は帰島後、対馬木材業組合の副組合長等、対馬の林業・木材業の中心的な役割を担うなど若手のリーダー的存在であり、木材の高付加価値化等に向けてヒノキ精油を活用したエッセンシャルオイルの商品を開発・販売し森林・林業の新たな価値の創出にも尽力している。

長崎県知事賞 受賞部門：しまの農林業経営部門（トップファーマー）

氏名

いわもと としひろ
岩本 敏廣

いわもと しげみ
岩本 茂美

市町名 佐世保市

所属団体 ながさき西海農業協同組合

宇久地区和牛部会

宇久町認定農業者会



1 経営の概要

	主品目（肉用繁殖牛）	その他	合計
作付面積（頭羽数）	55 頭	—	55 頭
単収	子牛生産率 85.4%	—	—
生産量（販売量）	47 頭	—	—
労働時間 （うち雇用時間）	4,640 時間 （0 時間）	—	4,640 時間 （0 時間）
家族従事者数	2 人	経営の継続性	3 年以内に後継者へ経営継承予定
労働条件の整備	家族経営協定締結		
安全・安心と環境に 調和した農業の取組	堆肥の供給、自給飼料の生産、生産履歴記帳、生産履歴に基づく販売		

2 受賞の理由（特徴的な取組）

(1) 繁殖牛の粗飼料自給率 100%達成や機械化・ICT化などにより省力化・低コスト化を図り、繁殖牛のステージ別飼養管理や超早期母子分離技術の導入、ワクチンによる疾病対策、「長崎和牛優良素牛管理こよみ」に沿った子牛の飼養管理により、高品質な子牛の生産と高単価の販売を実現している。



後継者との出荷前の子牛の手入れ作業

(2) 「夢見隊」を結成して牛の共同出荷を担って

おり、その共同出荷料金は、毎月のセリ市におけるメンバー内での最高販売者表彰や全国和牛能力共進会への研修参加費に充てるなど、組織や地域が盛り上がる活動を展開している。

(3) 敏廣氏、茂美氏ともに地域のリーダー的な存在で、畜産分野での地域の生産レベル向上に向けた取組をはじめ、敏廣氏は、農業経営勉強会の副代表や宇久集落営農支部長、茂美氏は、長崎県農業士や女性農業者団体、生活改善グループの代表などを歴任され、宇久地域の活性化にも貢献している。

長崎県知事賞 受賞部門：産地集団部門（いきいきファーム）

ながさきなんぶしんりんくみあいいさはやししよ
長崎南部森林組合諫早支所

代表者名 支所長 つるだ としゆき 鶴田 敏幸

市町名 諫早市

発足・設立年 平成14年



1 組織の概要

品目	原木丸太	構成員数	26人	産地規模	200ha
販売量		11,873 m ³	販売額	139,446 千円	
単収		86.4 m ³ /ha	単価	11,744 円/m ³	

2 受賞の理由（特徴的な取組）

(1) 県内でも他の林業事業体に先駆けて、「森林施業プラン書」の活用により、受託面積の拡大と作業員の所得向上で成果を上げている。具体的には、森林所有者に対し、所有林を育成するために行う施業内容と各工程の経費を明らかにしたプラン書を提示することで、信頼関係を構築し、受託面積の拡大と作業量の確保を実現している。



諫早農業高校生の林業機械操作実習風景

(2) 高性能林業機械の導入や効率的な作業システムを構築することで、省力化やコスト縮減が図られ、森林所有者の収益増加と作業員の所得向上に貢献している。販売面については、国内や輸出先のニーズに応じた良質丸太の有利販売に向けて、技術向上にも積極的に取り組んでいる。

(3) 近年では担い手の確保・育成に力を入れており、インターンシップの受け入れや作業員の処遇向上にも取り組んでいる。また、環境保全においても高い意識を持ち、再造林率は100%を誇り、森林組合発足当初から地域の山林会と協力し、経済林以外の森林づくりにも尽力している。

長崎県知事賞 受賞部門：地産地消・食農部門(いきいきファーム)

JAごとう さんちよくいちば 産直市場
 ごとう
 五島がうまい

代表者名 代表理事組合長

いえなが よしひろ
 家永 嘉弘

市町名 五島市

発足・設立年 平成 23 年



1 組織の概要

品目	農産物、加工品	構成員数 (認定農業者数)	491 人 (42 人)
経営理念	「もっと農業に活力を」・「もっと地産地消・安全安心を」・「もっと収入アップを」・「もっと女性の力を農業へ」・「もっと生きがいを」・「もっと強い結びつきを」・「もっと食農教育の場を」の7つのモットーを原点として、新鮮で安全安心な農水産物、加工品及び特産品を消費者へ直接販売することで、交流活動を行いながら地域農業の発展と地域活性化、地産地消の推進や生産者の意欲向上、五島ブランドの確立に取り組む。		
販売額	473,493 千円	施設の利用者数	174,766 人

2 受賞の理由 (特徴的な取組)

(1) 規模・売上ともに島内最大の直売所であり、直売所に併設した「農家レストラン」では地元の農畜産物を食材とした料理の提供や、高菜、椿油、五島牛、五島ルビートマトなど様々な地域資源を生かした特産品の開発・販売も行っており、地産地消に大きく貢献している。



売場の様子 (野菜・レシピ付き)

(2) 近年では、「移動販売車」による高齢者等への買物支援も行っており、地域に密着した地域になくてはならない住民の生活を支える施設となっている。消費者に対して農業への理解促進を図るため、コロナ禍においても「オンラインバスツアー」を企画することで、直売所や農家レストラン、出荷者、特産品を紹介・PRしている。

(3) 直売所出荷者の栽培技術の向上や新規出荷者の確保のため、JA ごとう農産園芸部と連携した「圃場巡回指導」や「栽培講習会」も実施している。地元農産物の料理レシピ提供、市の学校給食への新鮮な農産物の提供や職場体験の受入など積極的に取り組んでいる。

長崎県知事賞 受賞部門：農山村地域保全部門（げんきビレッジ）

いさはやしちょうじゅうしよりかこうはんぱいくみあい
諫早市鳥獣処理加工販売組合

代表者名 組合長 ながお ひろかず
 永尾 洋一

市町名 諫早市

発足・設立年 平成 28 年



1 組織の概要

構成員数	4 名	組織の性格	任意組合
活動内容	鳥獣害被害対策、解体処理、ジビエ利用（食肉販売）、鳥獣害対策の普及啓発		
活動実績	平成 28 年に諫早市内の 5 つの猟友会で組織され、諫早市有害鳥獣防除対策協議会が国の交付金を活用し整備した解体処理施設を管理・運営している。捕獲個体の加工販売のほか、捕獲者の技術力向上や大学生との交流活動、イベントへの参加によるジビエの普及啓発に取り組んでいる。		

2 受賞の理由（特徴的な取組）

(1) 設立当初、イノシシの搬入頭数は約 50 頭程度で、処理加工に仕向ける個体の割合も 46% と低かったが、捕獲者に対する捕獲技術の指導等により、近年では 300 頭以上の個体が持ち込まれ、加工仕向けの割合も 96% と飛躍的に向上するなど地域資源の有効活用にも貢献している。



フィールドスクールでの解体実習

(2) ドイツの国家資格「食肉マイスター」を日本人で初めて取得した構成員がいることで高い食肉処理技術を有し、市内直売所やネットでの販売のほか、食肉以外でもペットフード原料など需要に応じた積極的な販路開拓、ロゴマークの作成や名称の商標登録などブランド化の取組により、販売額が設立当初より大幅に伸びるなど、地域への経済効果とジビエの認知度向上にも寄与している。

(3) 長崎大学の学外授業「環境フィールドスクール」を毎年受け入れ、約 100 名の受け入れ実績となっている。捕獲から解体、消費までの実習指導を行い、地域が抱える鳥獣被害とジビエの利活用による地域振興について伝え、狩猟免許取得やレシピ集の作成につながるなど学生独自の取組へと発展している。地域振興の取組にとどまらず、野生鳥獣の捕獲文化の伝承にも貢献している。